

# ボーイスカウト・ひとり親等家庭における 体験格差白書2025

2026年1月

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟  
ファンドレイジング委員会

# [ダイジェスト編]

## ◎「自然体験をさせたい」親は9割超。しかし現実には6割が年1～2回以下

- ・ 92.5%が、自然のなかでの体験を「とてもしてほしい」と回答
- ・ 62.2%が、実際の自然体験の機会が「年1～2回以下」と回答

## ◎物価高が直撃。経済的理由で、「やりたい」を諦めている

- ・ 94.2%が、物価高騰のせいで「子どものための費用を抑えている」と回答
- ・ 65.3%が、経済的理由で「子どもがやってみたいと思う体験を諦めた」と回答
- ・ 89.5%が、何らかの理由（経済的理由含む）で「子どもがやってみたいと思う体験を諦めた」と回答

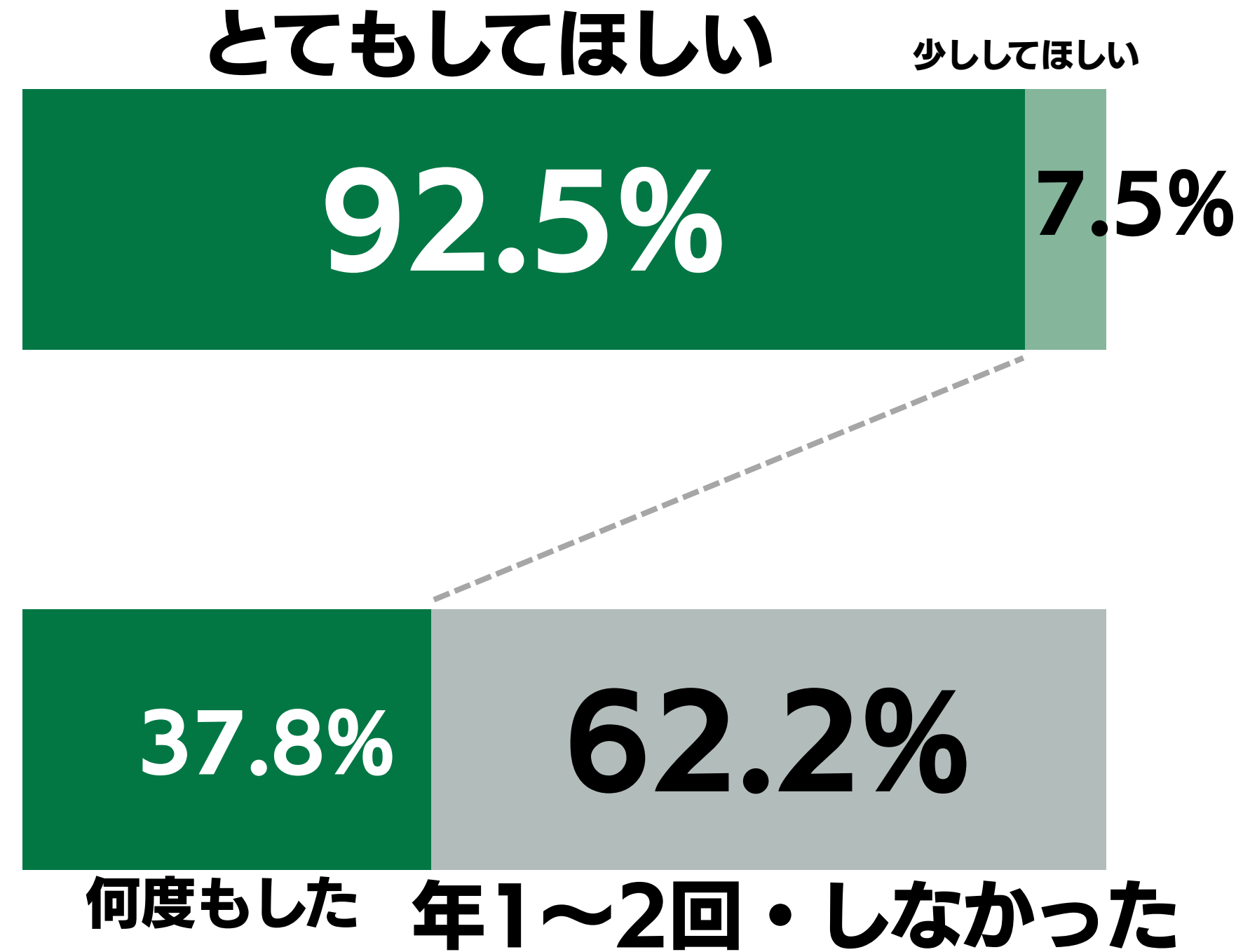
## ◎「諦めた経験」を持つ家庭にとって、ボーイスカウトが受け皿に

- ・（外部調査と比較して）本調査対象は、体験を諦めた割合が相対的に高い（89.5%）
- ・ 他での体験を諦めざるを得なかった家庭が、継続的な体験の場としてボーイスカウトを選択肢にしている

# 「自然体験をさせたい」 親は9割超

しかし現実には  
6割が年1～2回以下

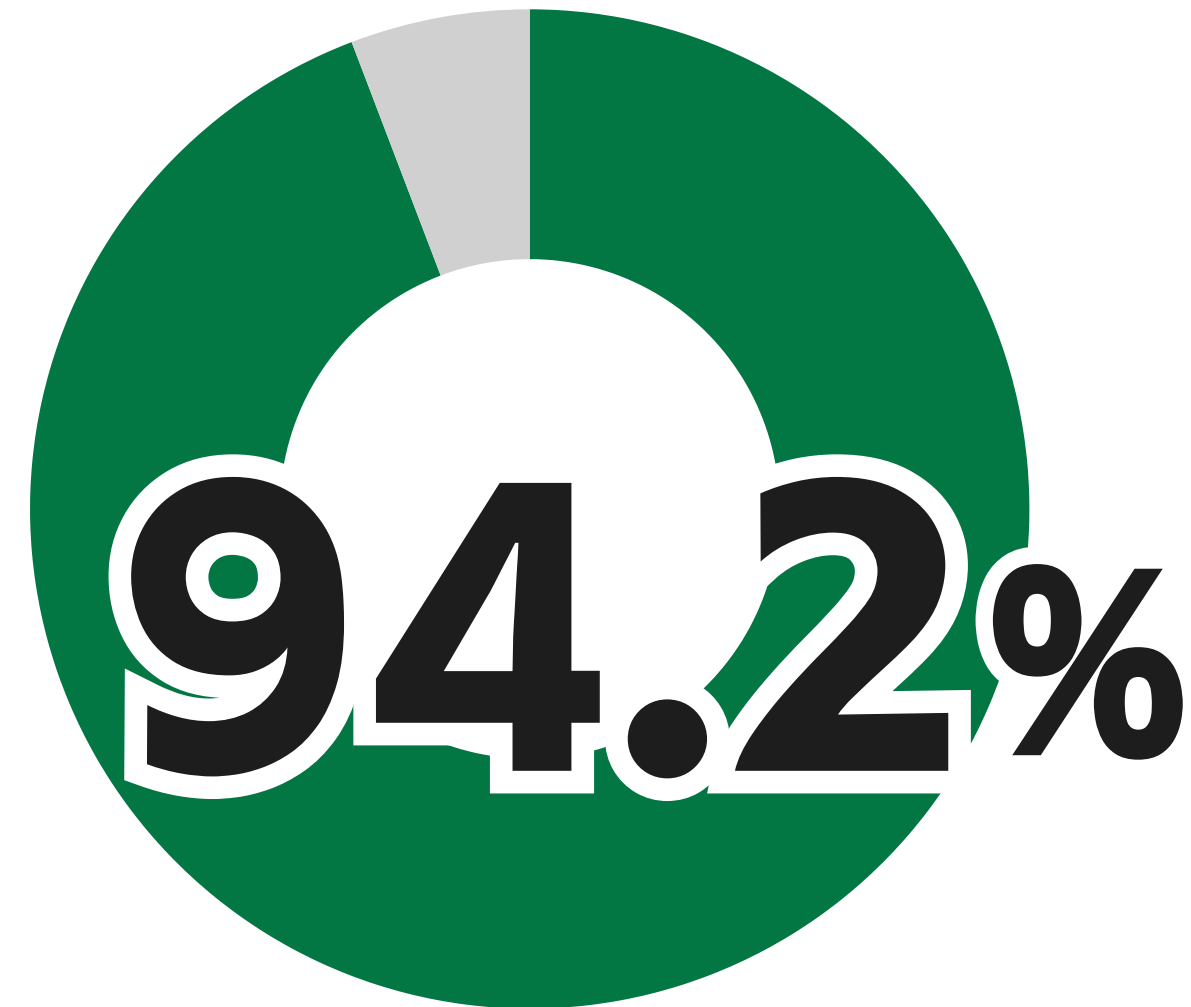
[25]



物価高が直撃。

経済的理由で、  
「やりたい」を  
諦めている

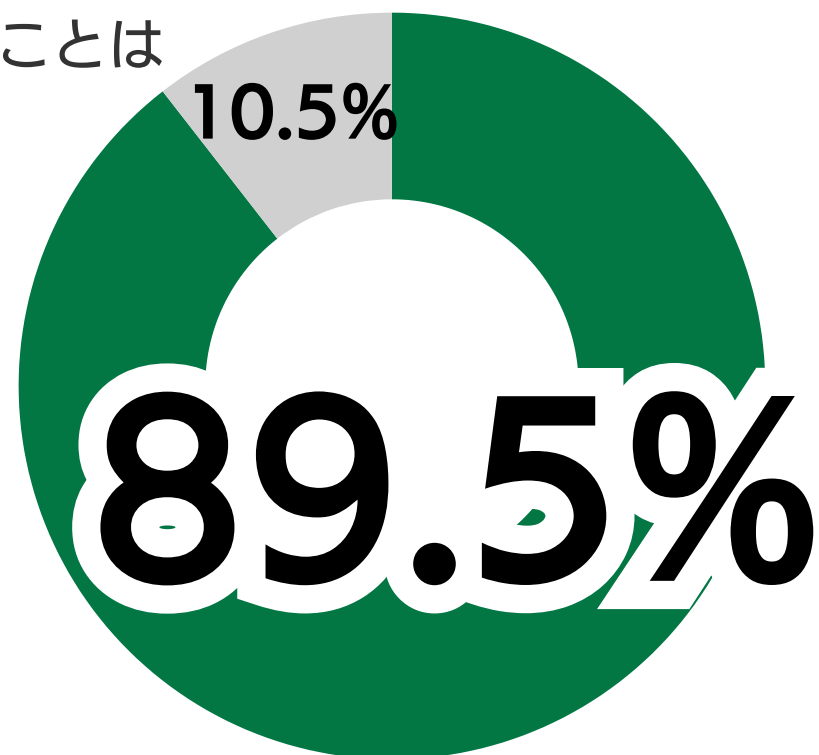
物価高騰のため、子どものための  
支出を削っている [25]



# 子どもが「やってみたい」と思う体験を諦めたことがある家庭は約9割 3人に2人は、経済的理由で諦めている

子どもが「やってみたい」と思う  
体験を諦めたことが「ある」[24]

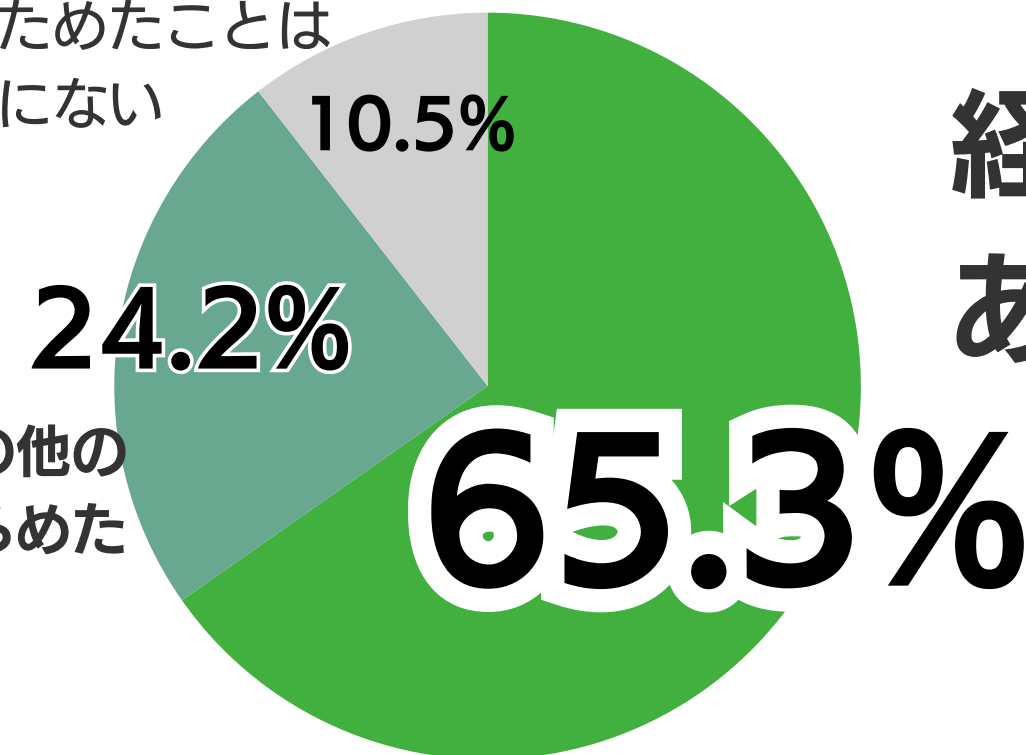
あきためたことは  
とくにない



体験を諦めた理由[24]

あきためたことは  
とくにない

時間的・その他の  
理由であきらめた

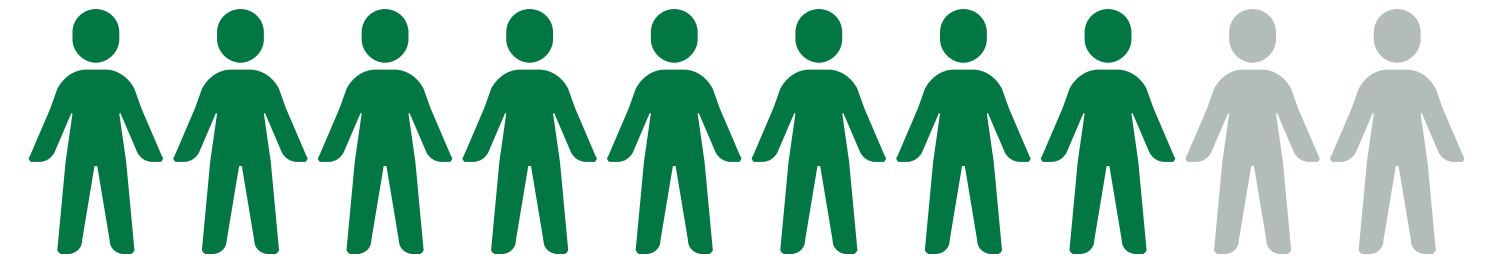


経済的理由で  
あきらめた

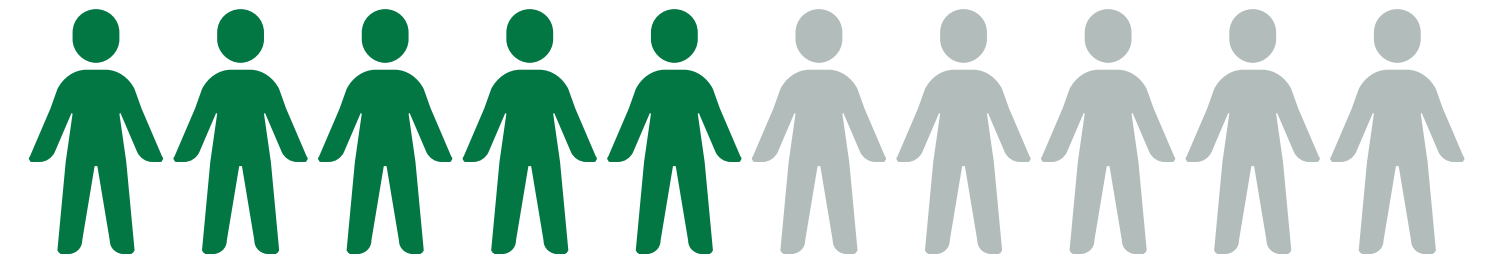
# ひとり親の悩みは、 子どもの 「教育・進学」「しつけ」

[23][24]

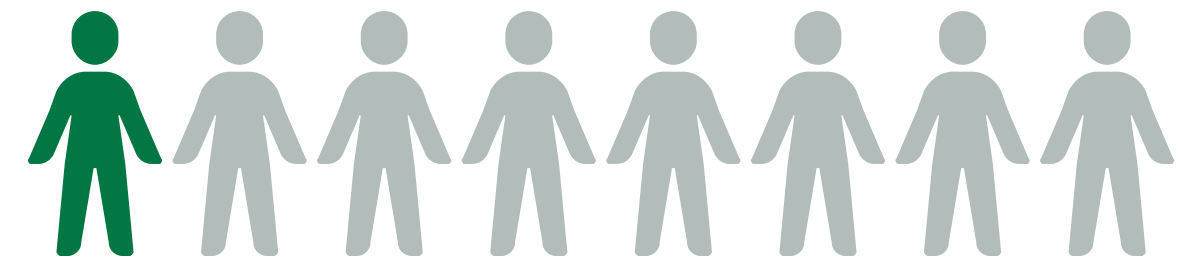
教育・進学 81%



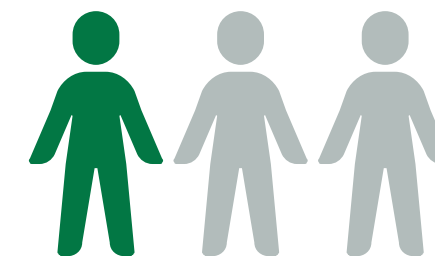
しつけ 52%



障害 12% (8人に1人)



食事・栄養 32% (3人に1人)





# ひとり親の声

小5で離婚、当初は荒れた気持ちを抑えられない。  
友達に「なぜ苗字が変わったのか」といえぐられるときに、  
学校で支えてくれたのも、朝迎えに来てくれたのも  
ボーイスカウトの仲間達でした。  
仕事でなかなか関わってあげられることができない中、  
たくさんの経験、心の成長、支えを頂きました。

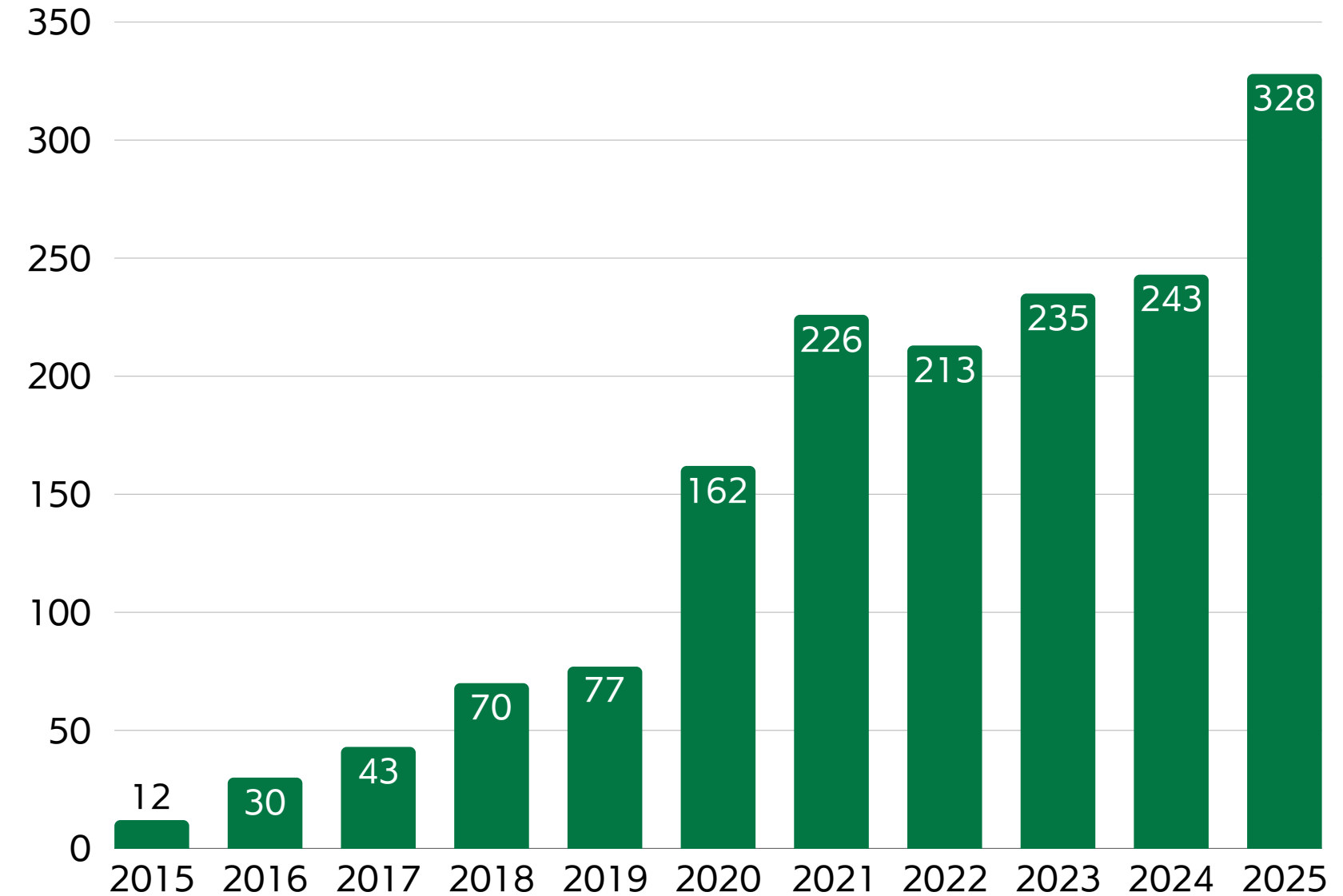


# [本編]

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟（以下「日本連盟」）は、ひとり親家庭等応援・ともに進もう助成プログラム（通称「トモスス助成」）として、ボーイスカウトに参加するための活動支援金を届ける取り組みを、2015年から実施してきました。**2025年度には受給者が過去最大の328人となり、これまでにのべ1,600人以上の子どもたちに活動支援金を助成しました。**

学校外での体験活動が子どもの発達に大きく影響することが知られています。近年は、ひとり親家庭等、**様々な理由で体験機会の不平等が生じる「体験格差」**という問題が指摘されています。その実態を把握し、今後の支援施策に活かすために、助成対象者（トモスス利用者）にアンケートにご協力いただきました。本レポートでは、アンケートの結果と、そこから見えてきたことをまとめました。

「トモスス助成」受給人数の推移



本調査は、日本連盟が実施する「トモスス助成」の受給家庭を対象として、ウェブアンケート方式により実施したものである。調査は過去3回実施しており、いずれも毎年8～10月頃、夏季活動終了後の時期に行っている。各回の調査対象は、当該年度の助成受給家庭で、毎回全家庭に対してアンケートを配信した。

短期間での属性変動が少ないことを踏まえ、同一母集団に対して年次ごとに点的に把握したいテーマに関する質問群を変化させる「反復横断調査」として実施した。各回の回答者の負担を抑えつつ、3年間を通じてひとり親家庭の体験格差の実態を浮かび上がらせるものである。

レポートでは、当該項目の調査年次を年度の下2桁で示す（例：2023年度の場合は[23]）。

調査年次	アンケート回答期間	対象家庭数	回答数	有効回答率
第1次（2023年度）	2023年8月20日～9月27日	215家庭	98件	45.6%
第2次（2024年度）	2024年10月2日～10月31日	190家庭	95件	50.0%
第3次（2025年度）	2025年10月8日～11月5日	244家庭	172件	70.5%

回答者の年代	[23]	[24]	[25]	[計]
20代	0	0	2	2
30代	28	22	36	86
40代	55	60	104	219
50代	14	13	30	57
60代	1	0	0	1

続柄	[23]	[24]	[25]	[計]
母親	95	94	165	354
父親	1	1	5	7
祖父母	1	0	1	2
おじ・おば	0	0	1	1
その他	1	0	0	1

子どもの学年	[23]	[24]	[25]	[計]
小学低学年	17	23	20	60
小学高学年	43	41	72	156
中学生	38	31	58	127
高校生	—	—	22	22

居住地	[23]	[24]	[25]	[計]
政令指定都市	—	—	50	50
指定都市以外	—	—	122	122

注：2025年度からトモス助成の対象者を高校生年代にまで拡大した。

# 「自然体験をさせたい」 親は9割超

しかし現実には  
6割が年1～2回以下

[25]

とてもしてほしい

少ししてほしい

92.5%

7.5%

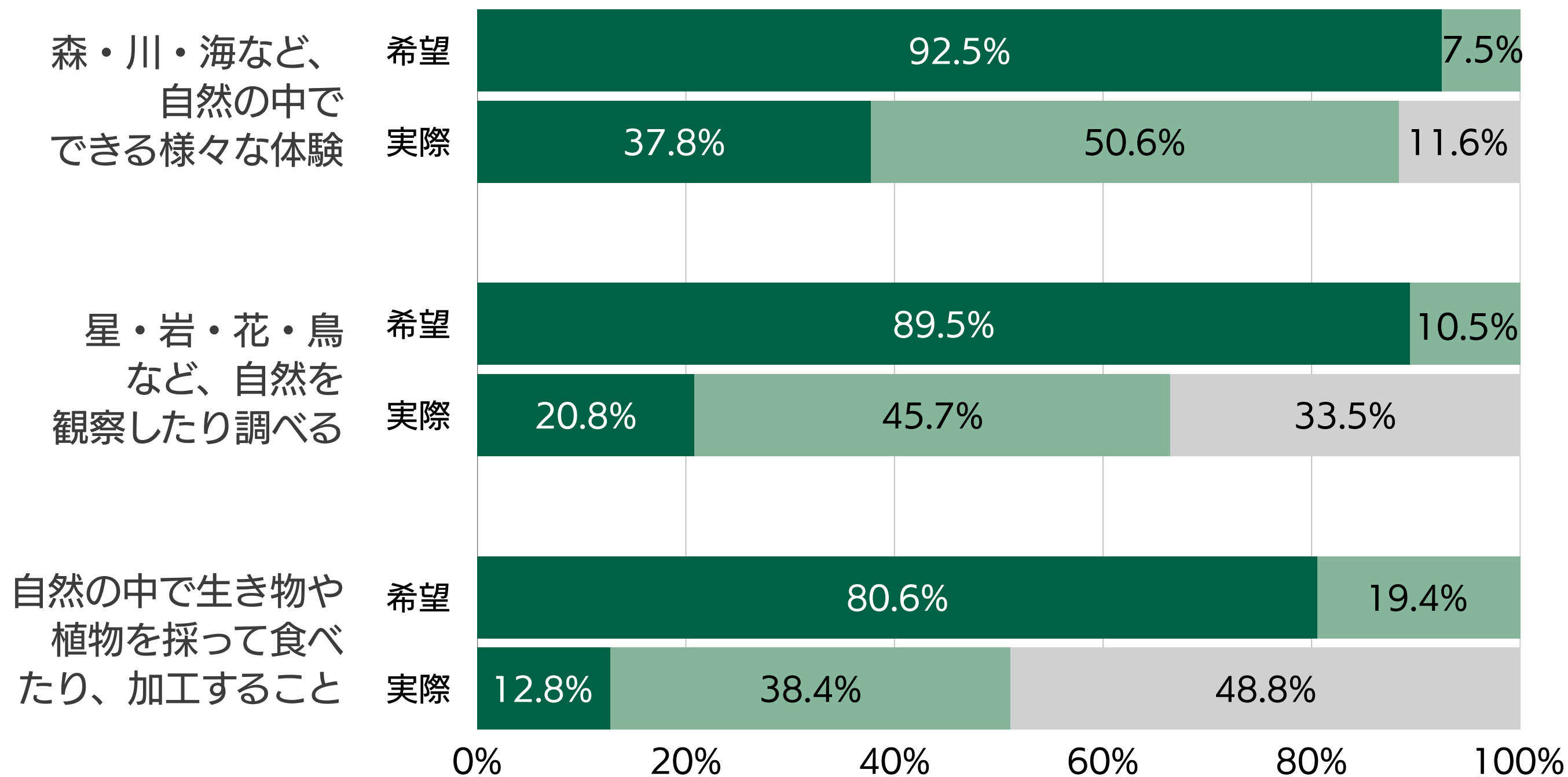
37.8%

62.2%

何度もした 年1～2回・しなかった

## 放課後や休日に体験してほしいこと・過去1年で実際に体験できたこと[25]

希望  
■ とてもしてほしい ■ 少ししてほしい ■ しなくてほしい  
実際  
■ 何度もした ■ 1～2回した ■ しなかった



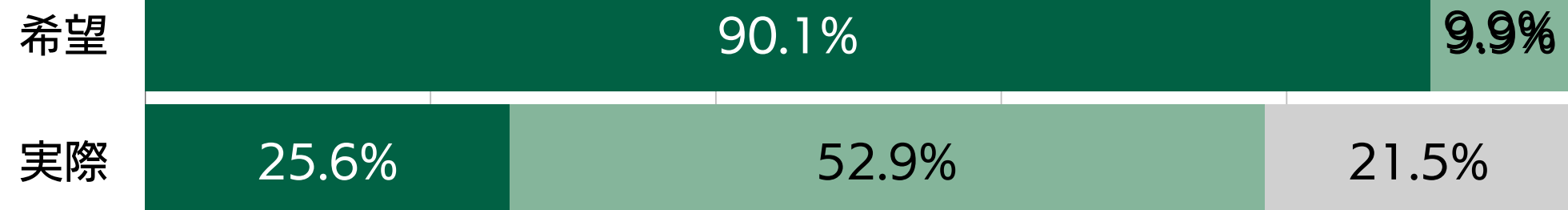
自然の中でできる体験を「とてもしてほしい」という9割以上の希望に対して、実際に「何度もした」と答えたのは37.8%だった。自然観察や採取・加工を体験できた割合はさらに低い結果となった。



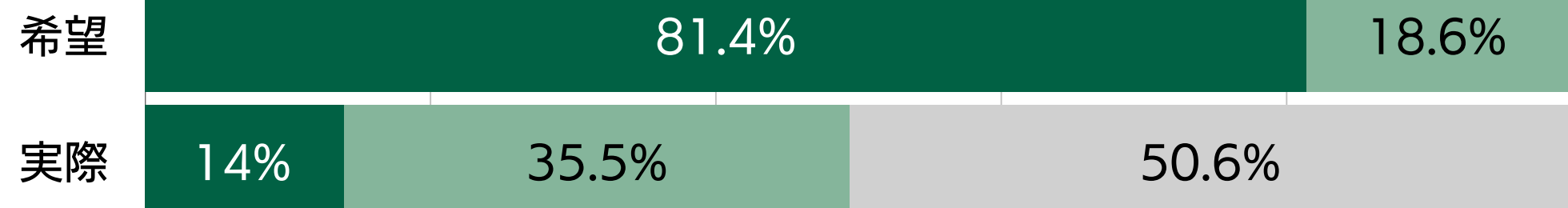
## 放課後や休日に体験してほしいこと・過去1年で実際に体験できたこと[25]

希望 ■ とてもしてほしい ■ 少ししてほしい ■ しなくてほしい  
実際 ■ 何度もした ■ 1～2回した ■ しなかった

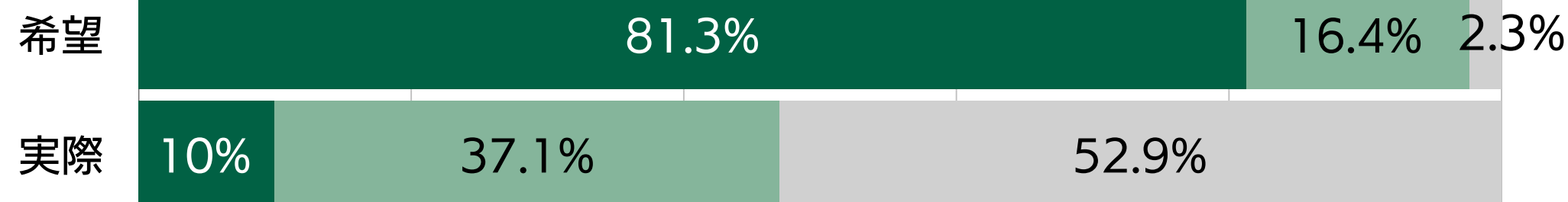
困っている人の手助け  
やゴミ拾いなど、  
社会の役に立つ活動



外国の人と話したり、  
遊んだりすること



科学の実験や見学  
を通して、新しい技術  
などに触れること



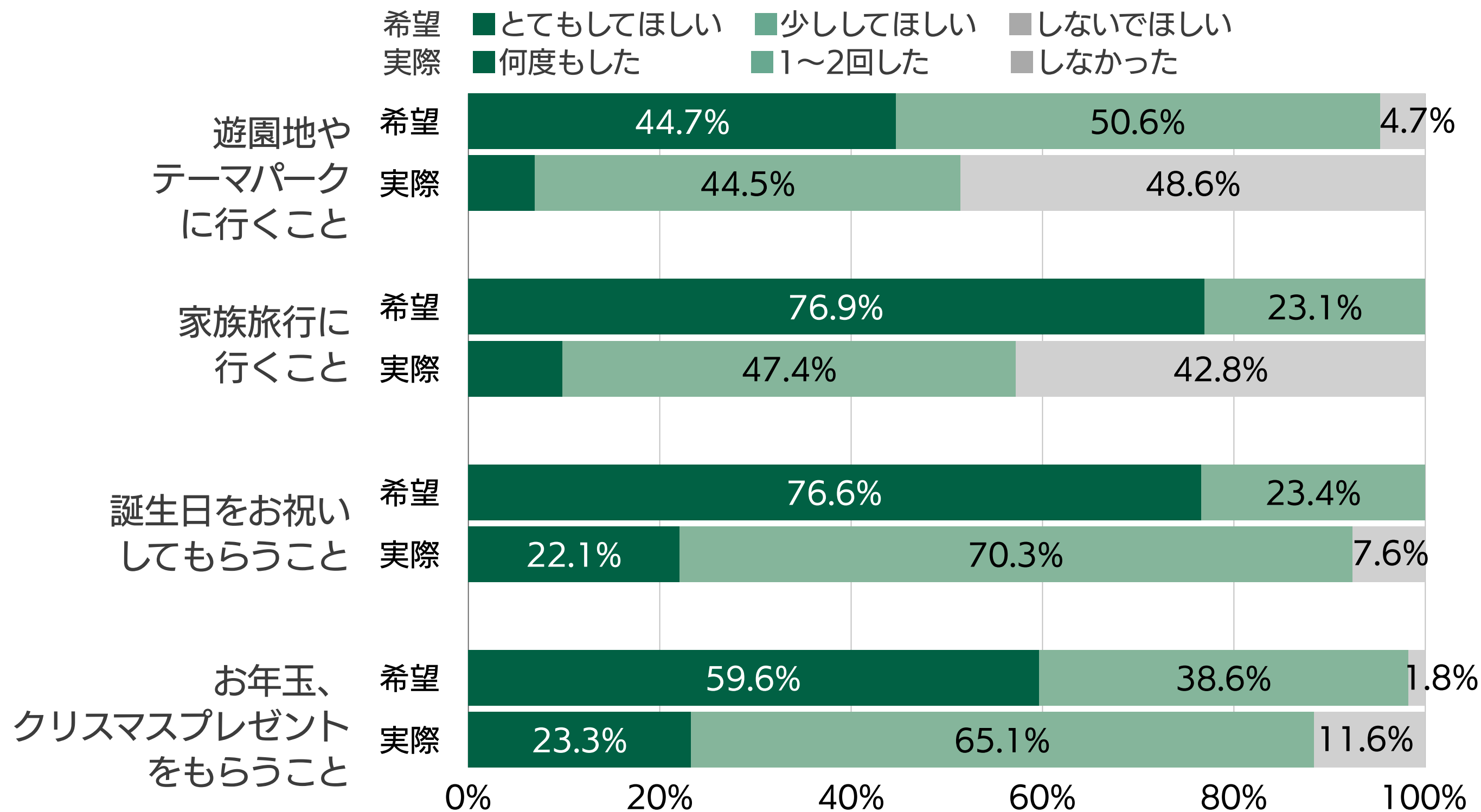
0% 20% 40% 60% 80% 100%

社会奉仕活動も、希望の高さに対して、1～2回以下の割合が高い結果だった。

国際交流や科学技術の体験は、過去1年で「しなかった」と答えた割合が半数を超えた。



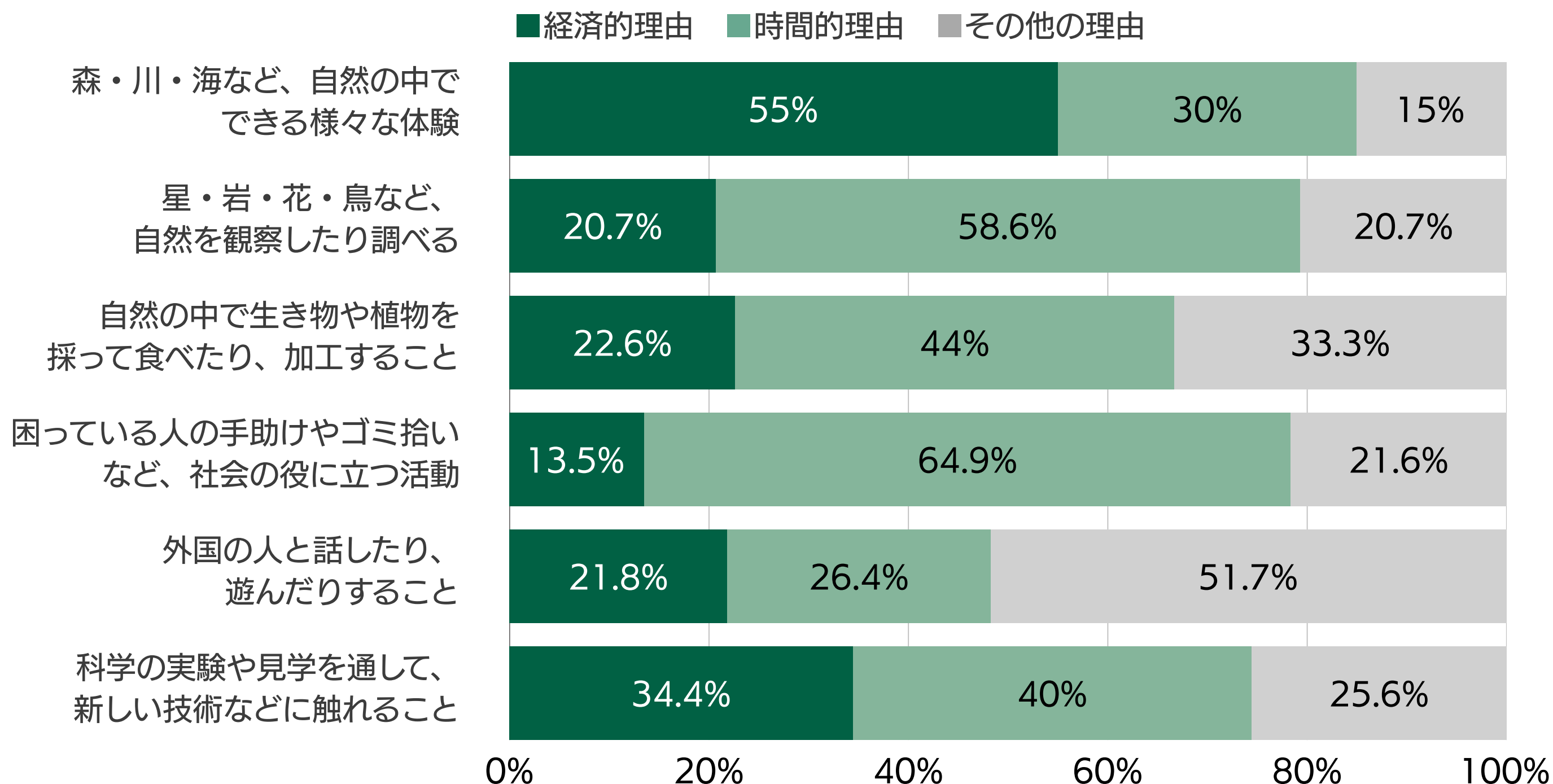
## 放課後や休日に体験してほしいこと・過去1年で実際に体験できたこと[25]



遊園地や家族旅行を「たくさんでなくても体験してほしい・一緒に行きたい」という希望に対し、実際には行けなかった割合が半数近かった。

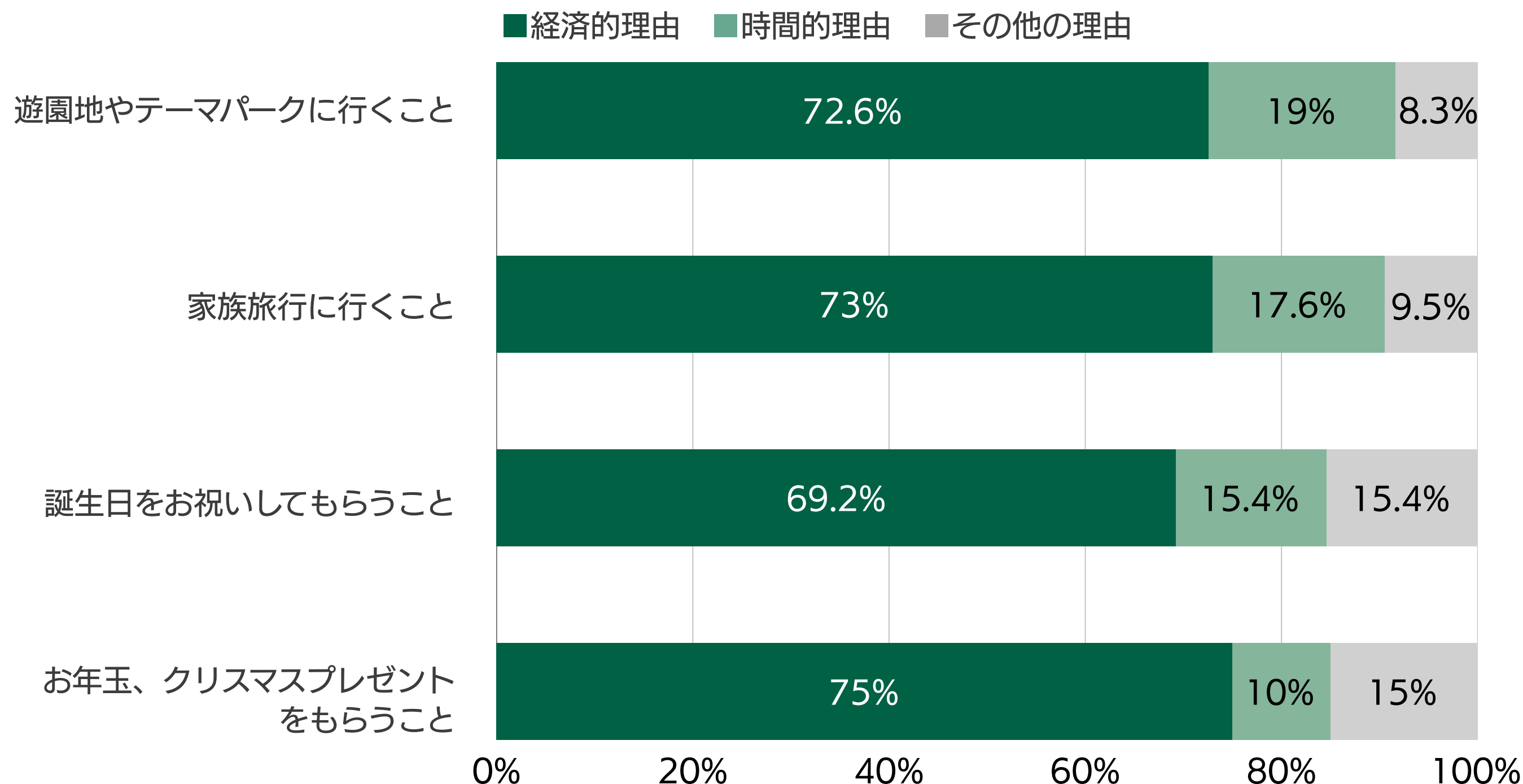
誕生日やお年玉等は、「年に1回は何とか贈ってあげたい」という状況が読み取れる。

## 過去１年で「体験できなかった理由」[25]



体験できなかった理由を択一式で質問したところ、自然体験は経済的理由が半数を超えたのに対し、それ以外の体験は時間的理由の割合が高く、ひとり親の多忙さも体験を諦める構造的要因になっていることが見えてくる。

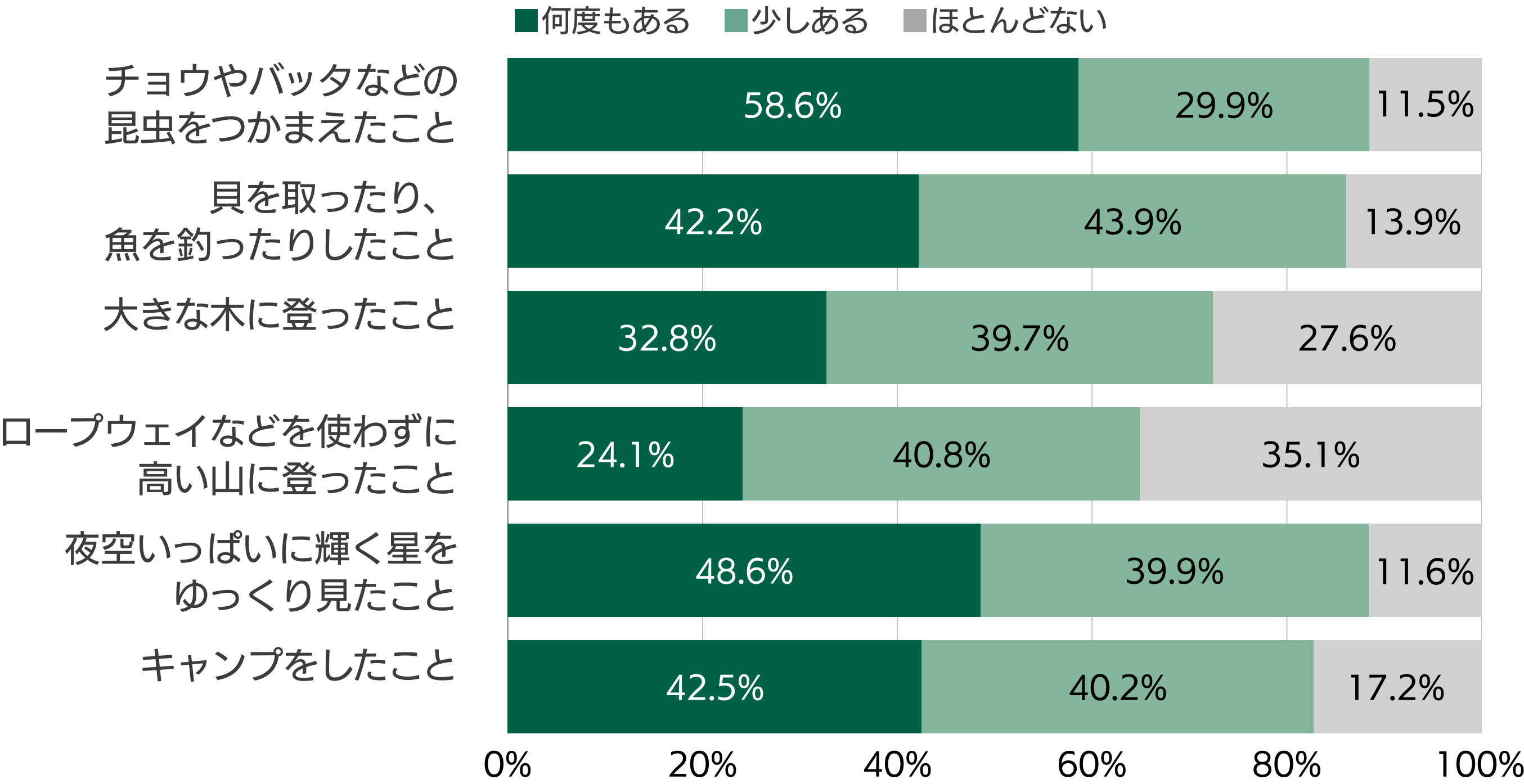
## 過去１年で「体験できなかった理由」[25]



遊園地や家族旅行、誕生日、お年玉等のレジャー、家庭内のお祝いを諦めた理由は、経済的理由の割合が高い結果となった。

なかには「ボーイスカウトのキャンプが家族旅行のかわりです」という声も寄せられた。

ひとり親自身の自然体験[25]



ひとり親自身の自然体験は、外部調査による全国平均とほぼ一致する結果であった。

自分がしてきた体験を「子どもにもさせてあげたいが、自分だけではさせてあげられない」という声のように、自然体験への期待を持っているといえる。

参考：国立青少年教育振興機構（2024）

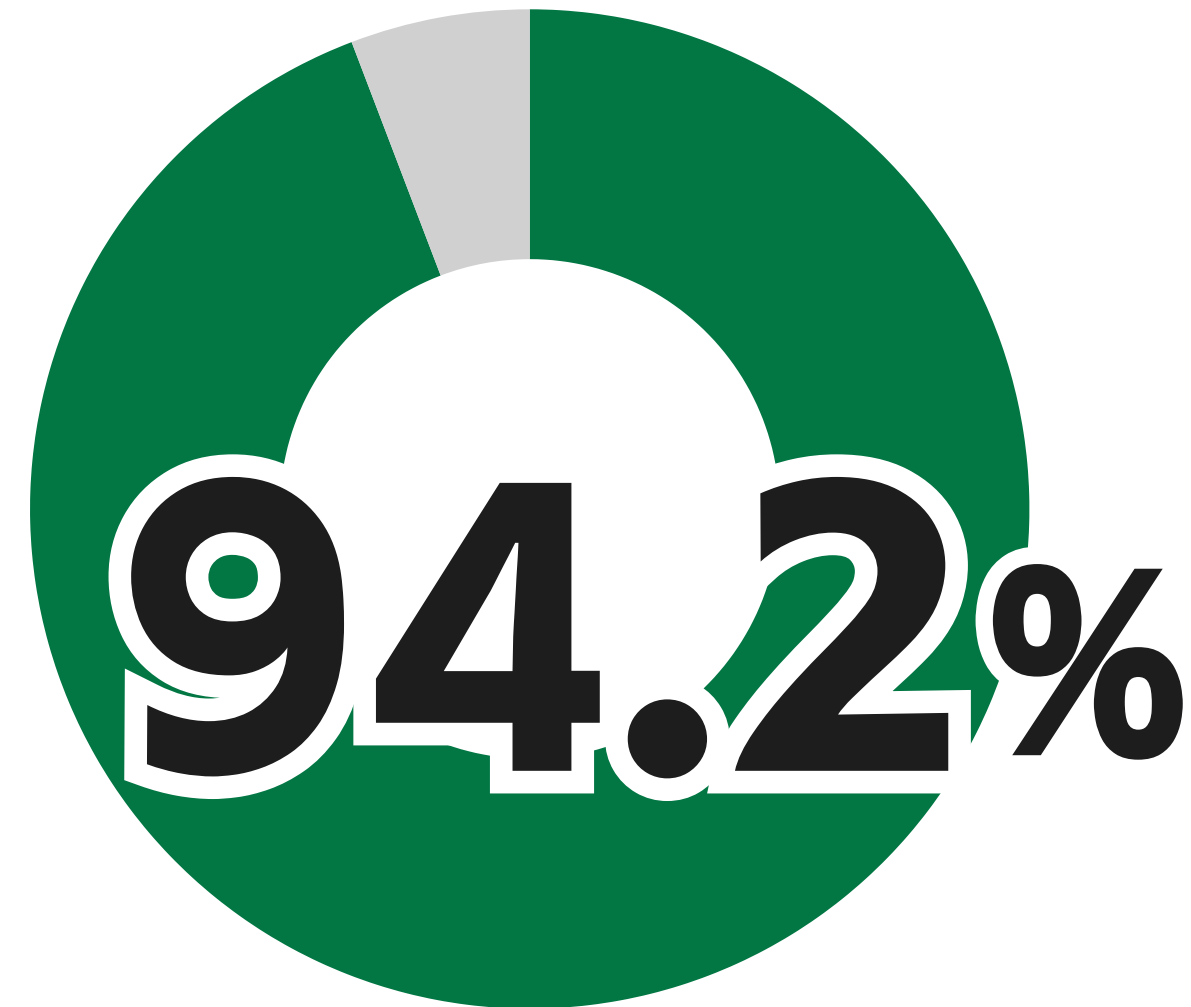
物価高が直撃。

経済的理由で、

「やりたい」を

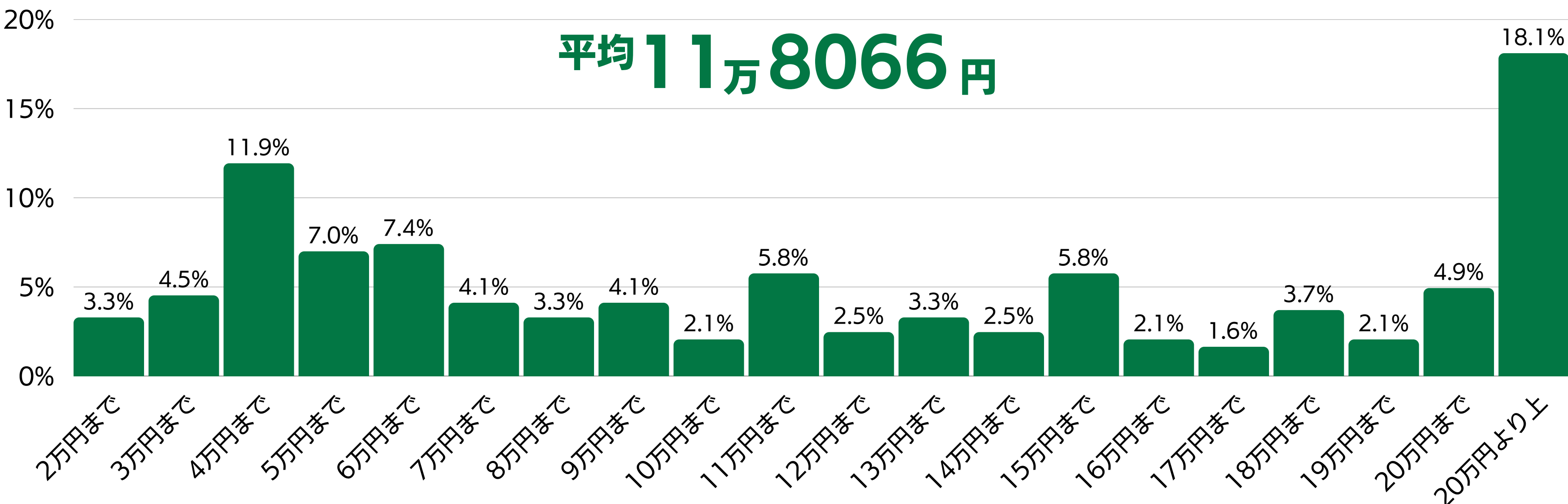
諦めている

物価高騰のため、子どものための  
支出を削っている [25]



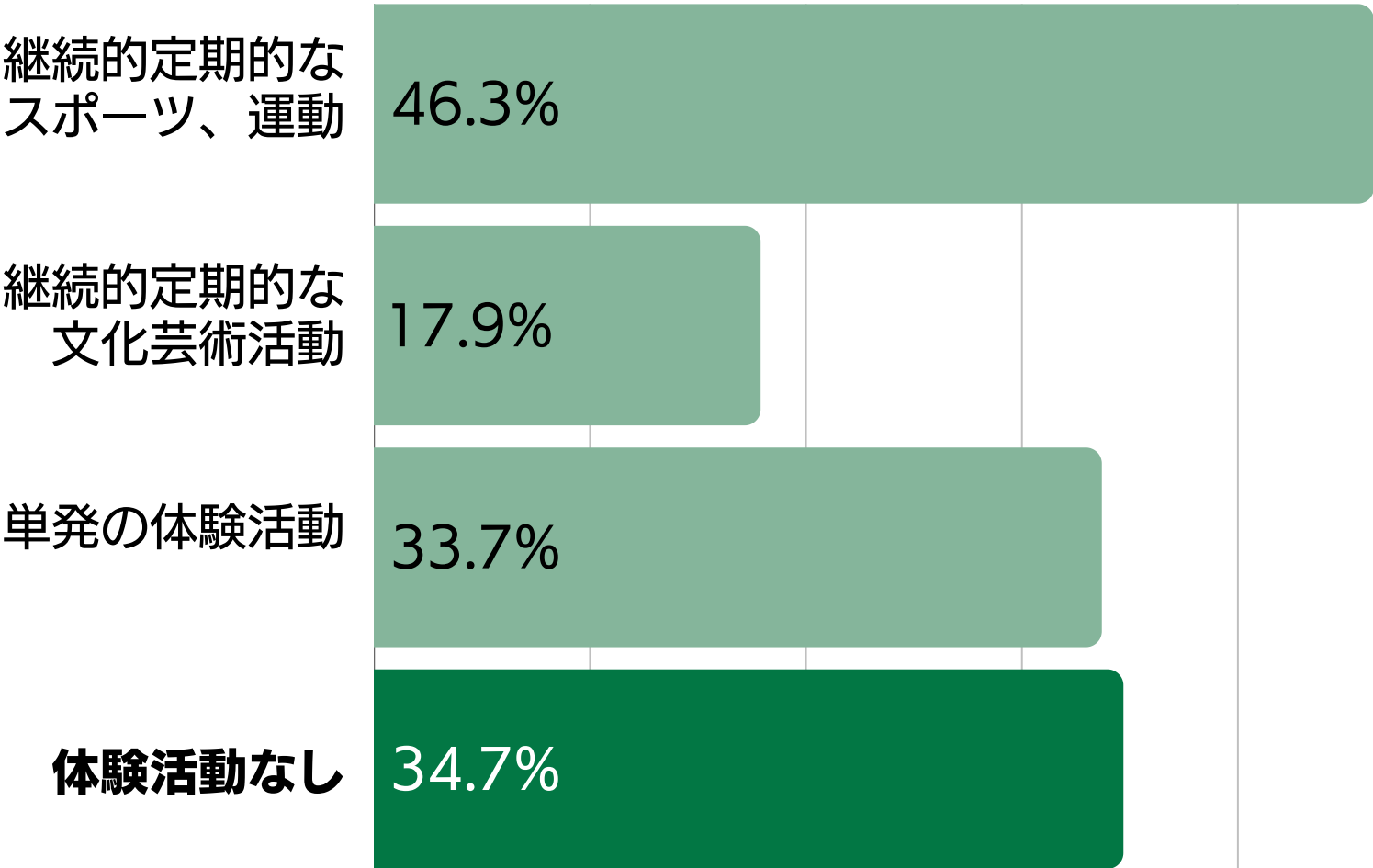
## 学校外の体験活動にかかる年間支出額（部活動・塾を除く） [24][25]

学校外の体験活動にかかる年間支出額は、外部調査より高く、平均11万8066円だった。子どもの教育・体験への期待の高さが現れている一方、ばらつきが大きく、ひとり親家庭の間での格差も伺える。





学校外で参加している体験活動[24]  
(ボーイスカウトを除く・複数回答)



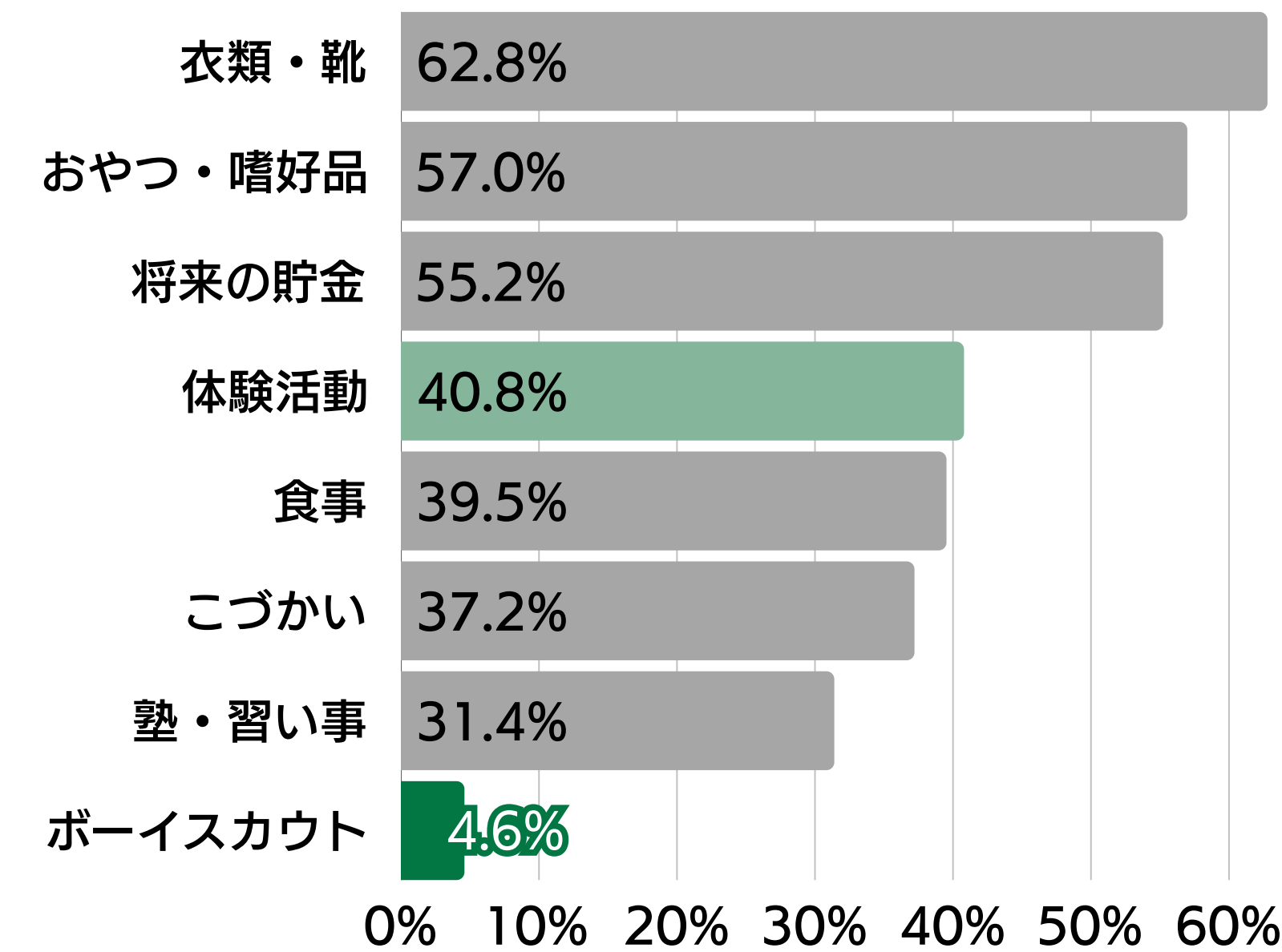
学校外の体験活動にかかる年間支出額[24]  
(ボーイスカウトを除く)



ひとり親家庭の子どもの3人に1人が、ボーイスカウト以外の「体験活動なし」と答え、学校外の体験活動にかかる年間支出額が1万円以下であった。ここから、ボーイスカウト活動が唯一の体験活動という家庭が多いことが分かる。



物価高騰により抑えている支出（複数回答） [25]



物価高騰により削られている子どものための支出の内訳は、「衣類・靴」「おやつ・消耗品」「将来の貯金」が上位で、続いて約4割が「体験活動」と答えた。塾・習い事などよりも先に体験活動が削られる傾向がみられる。

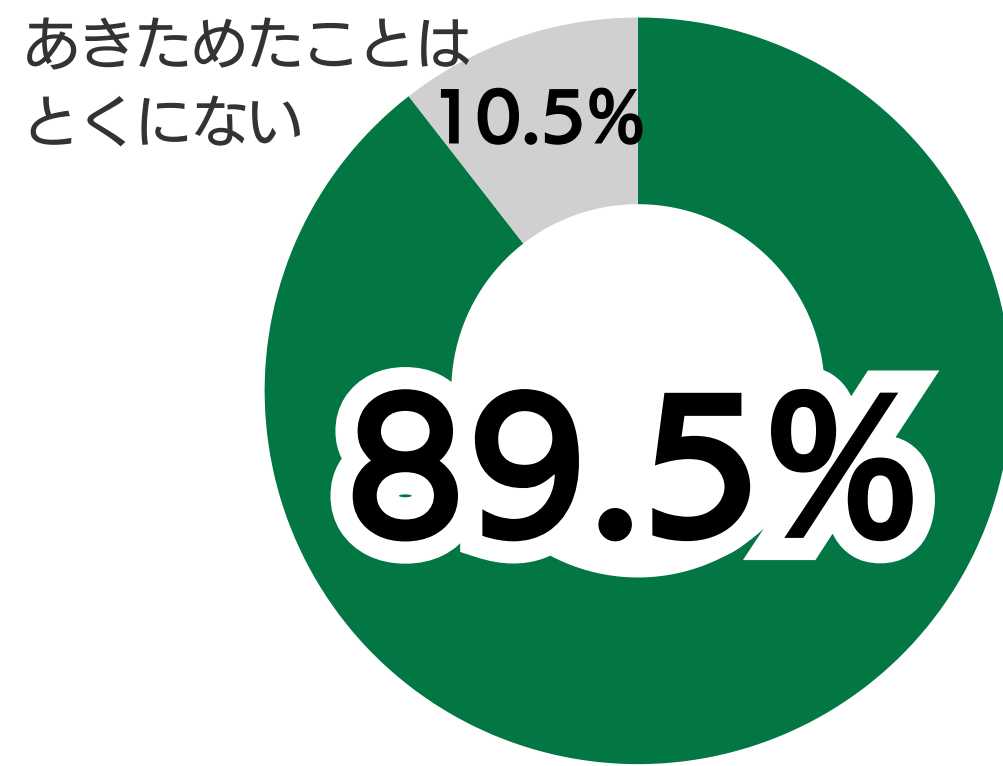
そうした中でも、ボーイスカウトの支出を削ったのは4.6%にとどまり、「他は削ってもボーイスカウトは続けさせたい」というひとり親家庭の選択が見られる。

## 子どもが「やってみたい」と思う体験を諦めたことがある家庭は約9割

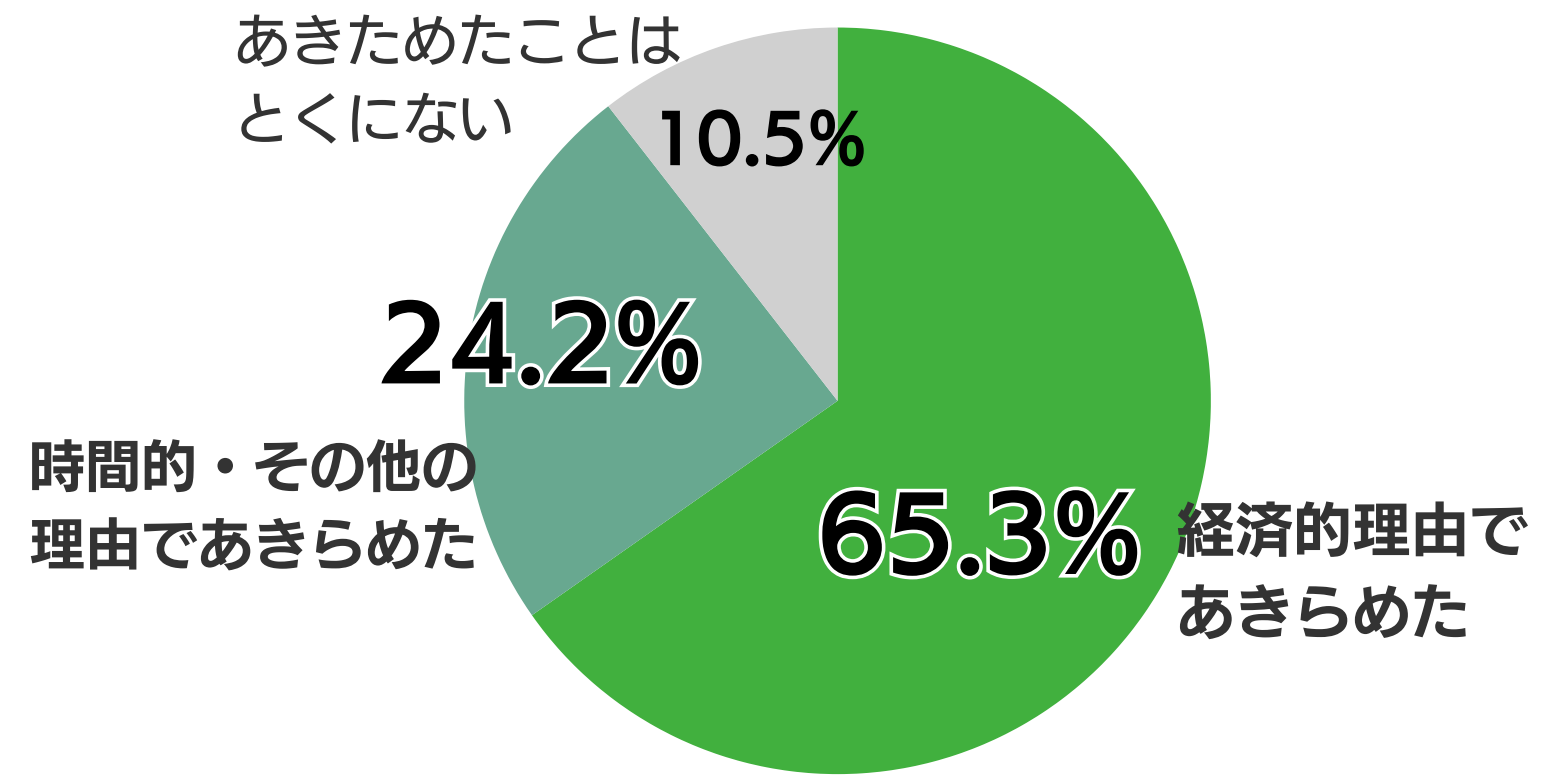
ひとり親の89.5%が、子どもがやってみたいと思う体験をさせてあげられなかったことが「ある」と答えた。経済的理由で諦めたのは全体の65.3%で、他にも時間的理由等により諦めたという答えがあった。

経済的理由等で体験活動を諦めることの多いひとり親家庭が、ボーイスカウトを選択肢にしている。

子どもが「やってみたい」と思う  
体験を諦めたことが「ある」[24]



体験を諦めた理由[24]



子どもの「教育・進学」「しつけ」について悩んでいる割合が高い。

3人に1人の割合で子どもの「食事・栄養」に悩んでいる家庭もあり、厳しい経済的背景が見える。

子どもについて悩んでいること（複数回答）[23][24]

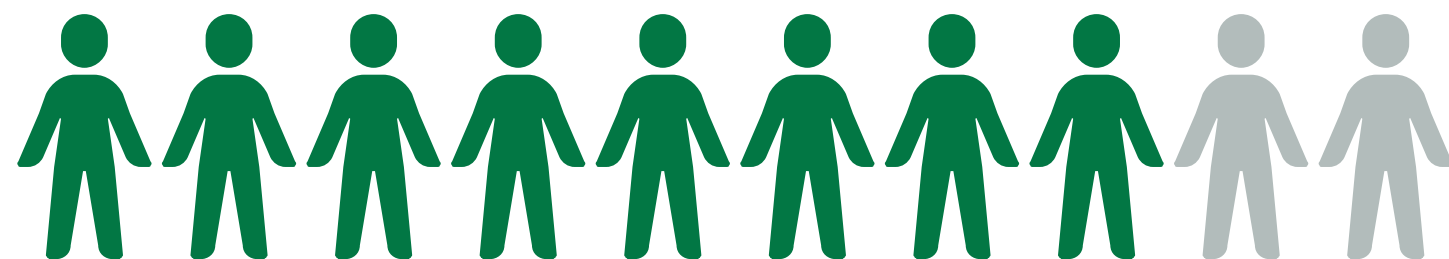
しつけ 52%



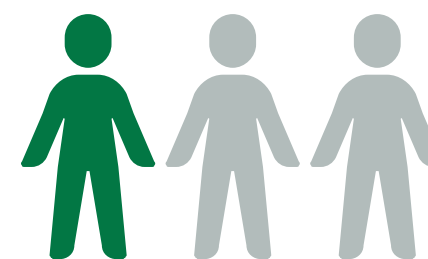
障害 12% (8人に1人)



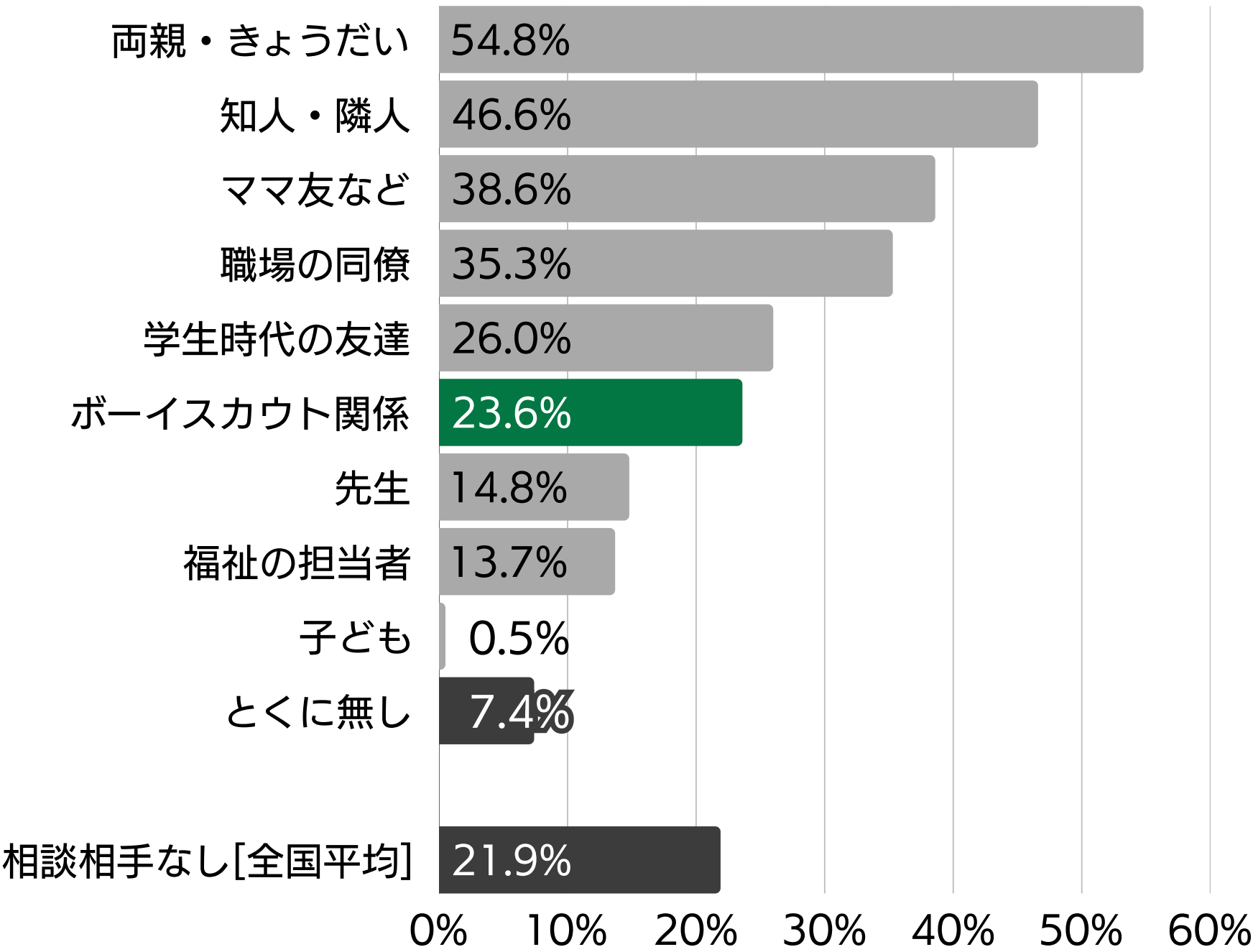
教育・進学 81%



食事・栄養 32% (3人に1人)



## ひとり親家庭の普段の相談相手（複数回答） [23][24][25]



ひとり親の普段の相談相手について聞いたところ、23.6%が「**ボーイスカウト関係者**」を挙げた。

厚生労働省による全国調査では、母子家庭の22%（父子家庭では45%）のひとり親が「相談相手なし」であった。本調査では、「**相談相手なし**」という方は**7.4%**に留まった。

子どもがボーイスカウト活動に参加することで、関係者や友人等の相談相手が増え、**ひとり親の社会的つながりが広がることにもなっている。**

参考：厚生労働省(2022)

ボーイスカウトでは、**体験を必要とする子どもたちに届く活動基盤が全国で整っている**。全国約1,600か所に活動拠点をもち、年間のべ12万回に及ぶ活動を通じて、**多様で・継続的な体験の機会**を提供している。

さらに、約4万3,000人の子どもたち、3万人の大人（ボランティア）のつながりが広がっている。

このようにボーイスカウトは、**経済的理由等で体験を諦めたひとり親家庭の子どもたちにとって、「身近で」「継続的な」体験の選択肢**になっている。

## 全国のボーイスカウト

全国 **1600** か所

年間のべ **12万** 回の活動

**4万3000** 人の仲間たち

**3万** 人のボランティア

活動回数は全国調査2024による。人数は2025年3月末時点。

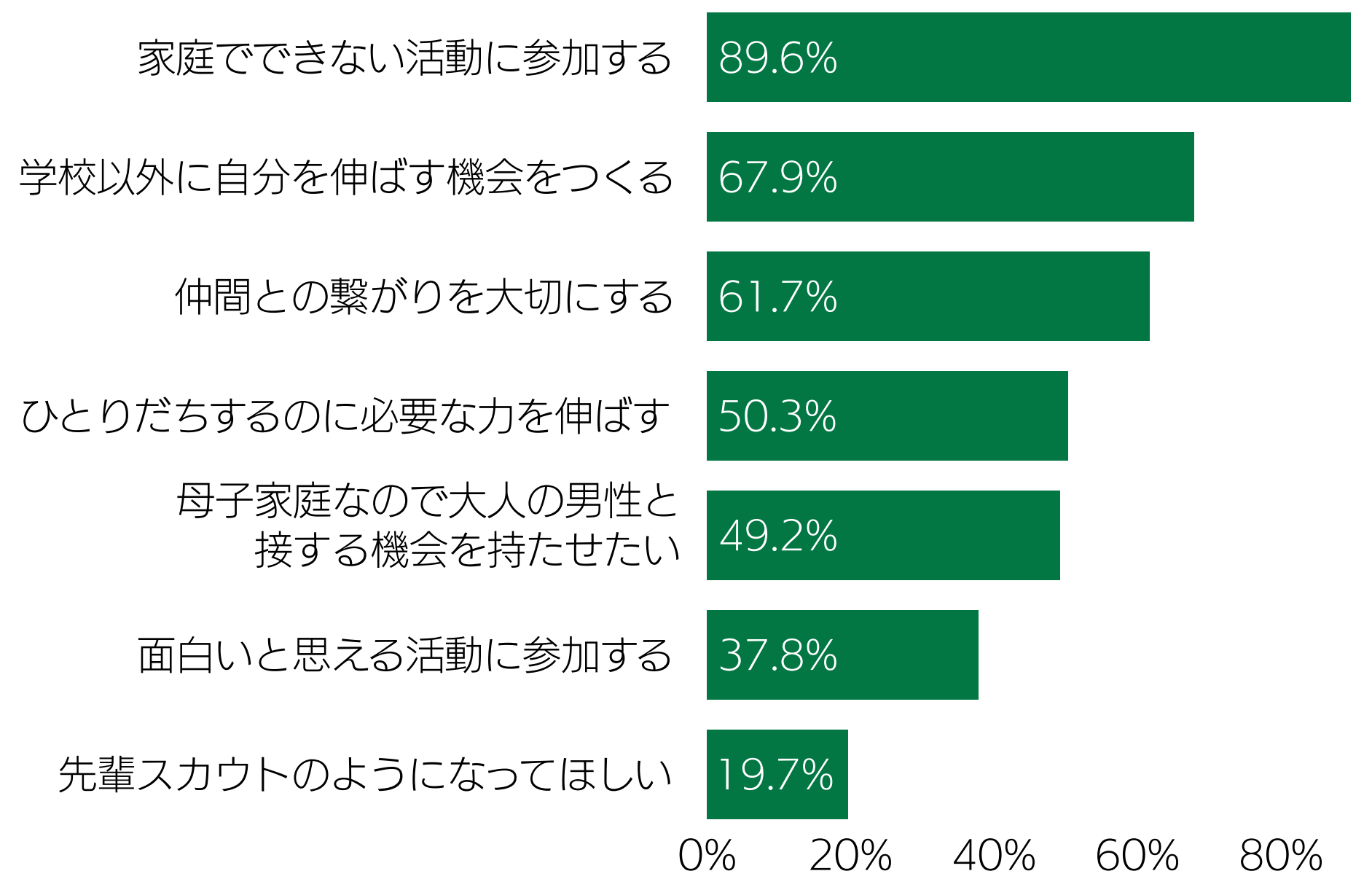


ボーイスカウト活動に期待していることは、「家庭でできない活動」「仲間との繋がり」「自分を伸ばす機会」を期待する回答が多かった。

ボーイスカウトのプログラム内容や、グループでの活動すること、そして子どもの成長にプラスになることへのニーズが高いと考えられる。

またひとり親ならではのニーズとして、「大人の男性と接する機会」を期待するという回答が半分以上あった点も注目される。

## ボーイスカウト活動に期待していること (複数回答) [23][24]



# 「諦めた経験」を持つ家庭にも届く体験の場

29

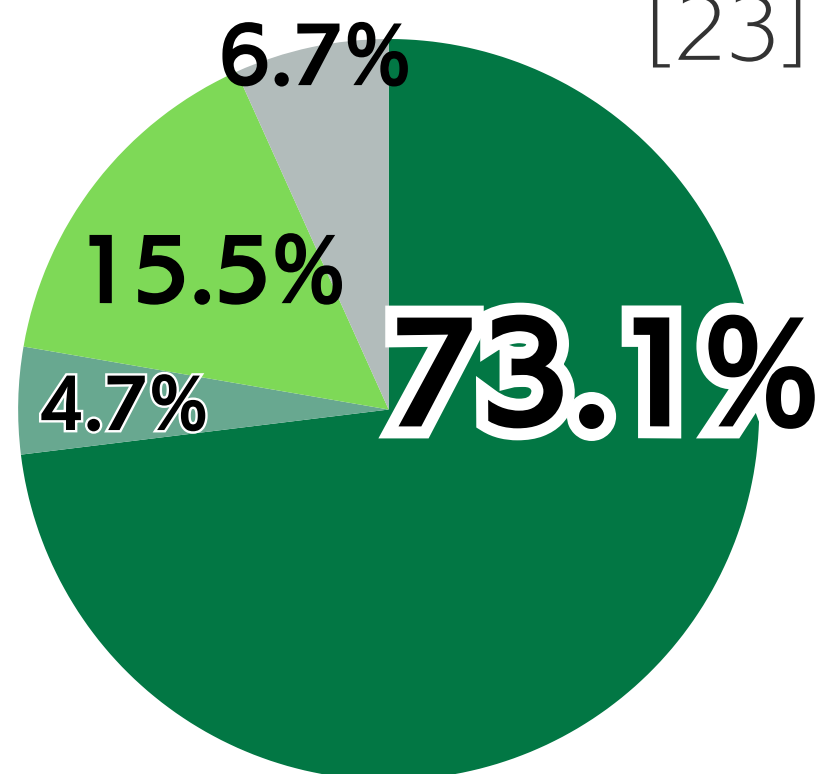
7割以上が「スカウト活動をいつまでも続けてほしい」と答えた。「高校生まで」「中学生まで」を含めると、9割が長く続けてほしいと願っている。

トモスス利用者の9割が「友人や知り合いにスカウト活動を勧めたい」と答えた。とくに「強く勧める(8～10)」と答えたのは3分の2だった

## ボーイスカウトをいつまで続けてほしいか

[23][24]

- いつまでも長く
- 高校生まで
- 中学生まで
- 小学校卒業まで

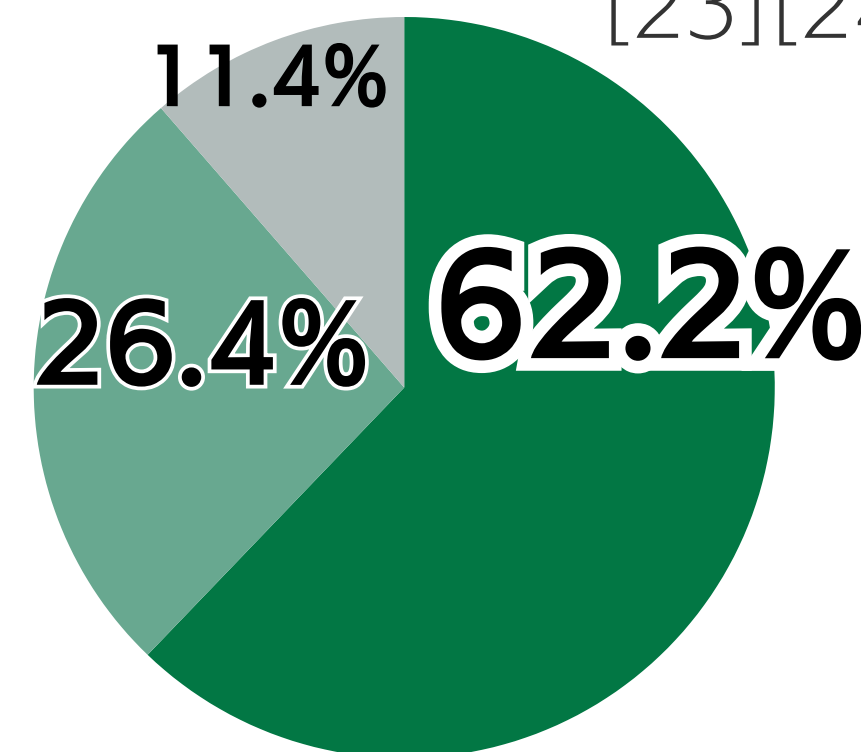


**93.3%**が  
中学生以上まで、長く続けてほしいと回答

## ボーイスカウトを知り合いに勧めるか

[23][24]

- 強く勧める (8～10)
- まあまあ勧める (5～7)
- あまり勧めない (1～4)



**88.6%**が  
スカウト活動を周りに勧めたいと回答



# 実際に届いた ひとり親家庭の声

小5で離婚、当初は荒れた気持ちを抑えられない。  
友達に「なぜ苗字が変わったのか」といえぐられるときに、  
学校で支えてくれたのも、朝迎えに来てくれたのも  
ボーイスカウトの仲間達でした。  
仕事でなかなか関わってあげられることができない中、  
たくさんの経験、心の成長、支えを頂きました。

- **学校では学べないことを自ら探して体験していく力を身につけてほしいです。失敗しても良いことを学んでほしいです。**
- **ゲームの中では得ることのない自然の中で活動してほしい。仲間と共にどのようにしたらより良い活動やより良い社会を作っていけるか模索して行ってほしい。**
- **自然に触れ合い、色々なところへ行って、色々な人と関わり将来どうなりたいか考えるきっかけにしてほしい。**
- **自分の意見や考えを相手に伝える、人の思いや考えを尊重すること。1人、家族ではなく仲間との関わりでしか得られない経験をしてほしい**

- 色々なことに怯まず挑戦し、気の合う人にも合わない人にも、色々な人に出会って人と**協調することの素晴らしさも難しさも**、たくさん学んで欲しいです。
- 一人でも、頼れる大人がいなくても、便利な機械がなくても**生きていく力になる知恵と経験**。ケガをしたときの応急処置。山で迷子になったときの対処法。
- **広く浅くでも良いので、初めての経験をたくさんしてほしい。**
- **人との出会いを大切に**、いろいろな文化、言葉など、性別や国境を超えて様々な出会いや経験をして欲しいです。
- 人として生きていくの**にお金に変えられない学びのある体験や経験**をしてほしい

- 小5で離婚、当初は荒れた気持ちが抑えられない。友達に「なぜ苗字が変わったのか」と心えぐられるときに、学校で支えてくれたのも、朝迎えに来てくれたのもボーイスカウトの仲間達でした。仕事でなかなか関わってあげられない中、たくさんの経験、心の成長、支えを頂きました。

- 活動で募金をしたことから、町中で街頭演説をしたり、募金活動している人の目的を考え自分の共感した事には、**自分のお小遣いから少額ですが、募金したりと社会的な参加を積極的にする**場面で成長を感じます。
- ひとり親でボーイスカウトの活動に送っていけない事がありますが、自分で雨の中**雨具を着て自転車**で今日行ったよ！と報告を受けると逞しくなったなと日々感心しています。また**年下のスカウトのことを気にかける様になってきた**ように思います。虫は苦手だけれどキャンプは楽しい！と次の宿泊活動はいつかなあと楽しみにしています。
- 思春期ですがボーイスカウト活動の中で**親以外の大人と接する機会がある**おかげで話すことに慣れてきました



- **普段と違う学区外のお友達**ができ、ボーイスカウト活動の時はとても楽しそう。いろいろなことに**チャレンジ**させてもらえて、人として成長していると思う。
- **自分で考えて行動するようになった。何でもやってみたい気持ちが強くなった。**色々な方と関わるようになり、関わりが広がった。
- **学校に行かない時期がありましたがボーイスカウトは自分の居場所があり安心するよう**でほとんどの活動に参加出来ました。下の子の面倒もよく見てくれて頼もしいです。
- **長男は学校では怒られてばかりで自己肯定感の低い子でしたが、隊長、副長、先輩方、いろんな話を聞いて頂いたり、時には厳しく叱って頂きたくさんの方に育てて頂いていきます。**今は上級班長として後輩たちに優しく教えているらしく成長を感じます。



本調査は、一部の設問を他機関・団体による調査と共通化しています。今後、比較分析を進めることで、ひとり親家庭・ボーイスカウト参加者のそれぞれの置かれている状況や課題を析出する基礎になると期待されます。さらに将来的には、各支援団体や調査機関がセクターを超えて、調査設計段階から連携していくことも重要になると考えられます。今回参考にした調査は以下のとおりです。

- ・厚生労働省（2022）令和3年度全国ひとり親世帯等調査結果
- ・チャンス・フォー・チルドレン（2023）子どもの「体験格差」実態調査最終報告書
- ・国立青少年教育振興機構（2024）青少年の体験活動等に関する意識調査（令和4年度調査）報告書
- ・キッズドア（2025）第1回困窮子育て家庭パネル調査結果

これまでの支援の取り組みと調査結果を踏まえ、日本連盟は今後も、すべての子どもたちに豊かな体験の機会を届けるために、地域・社会と連携しながら取り組んでまいります。

最後に、ご多用のなか毎年のアンケート調査にご協力くださった保護者の皆さまと、トモスス助成を応援くださる支援者の皆さまに対し、ここに記して感謝申し上げます。

人と地球に  
よりよい未来を

---



そ な え よ つ ね に  
**ボーイスカウト**